

【1年】

題材名		■学習課題○学習活動	時間数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A 家族・家庭生活	家庭分野ガイダンス	■生活を見つめ、自立しともに支え合う生活に向かって、家庭分野の学習に取り組む。 ○小学校の学習を振り返り、中学校での学習の目的、内容を確認する。	1	・自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて理解している。 ・家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。		・3年間の家庭分野の授業で自分が身につけたいことや、知りたいことについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
	1 今の自分とこれから (p.18~21)	■自分の成長と家族や地域の人々とのかかわりと、自分自身について理解する。 ○教科書の例を参考にこれまでの自分を支えてくれた人を思い出す。	2			
	2 家庭のはたらきと家庭の仕事 (p.22~25) 3 様々な家族・家庭 (p.26~37)	■家族・家庭の機能及びそれを支える仕事や社会のしくみについて理解し、家族関係について考える。 ○家庭の機能を支える家庭の仕事を誰が担っているかに気づき、自分ができていることを考える。 ○家族関係の様々なつながりを理解し、ロールプレイングなどを通して、それぞれの立場について考え、家族関係について考える。		・家庭には様々な活動があることと、家庭の主な機能について理解している。 ・自分や家族の生活は、家庭の内外の活動によって支えられていることを理解している。 ・家庭生活を支える活動とそれを支える社会の仕事やしくみの学習をとおして、家庭生活と社会のつながりを理解している。	・家族とのかかわりについて解決策を構想し、実践を評価・改善したりしている。	・自分の成長は家族をはじめ、多くの人に支えられ、影響を受けてきたことについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
B 衣食住の生活（食生活）	1 人間にとっての食事 (p.90~95)	■食事の役割について理解し、毎日の食生活に関心をもつ。 ○食事の役割について小学校で学んだことをふり返り、どのようなときの食事が印象に残っているかなど発表する。 ○食習慣について理解し、健康な体づくりのために気をつけなければならないことについて考える。 ○調理実習の基本を知り、団子づくりをグループで行い五感を使って試食する。 ○調理の役割と食事の意味についてグループで意見交換する。	2	・健康な体づくりには「栄養(食事)」「運動」「休養(睡眠)」の調和がとれていることを理解している。 ・調理実習の基本を理解し、調理によって食品が変化することを実感を伴って理解している。	・自分の食生活を「栄養(食事)」「運動」「休養(睡眠)」からふり返ることについて、問題を見いだして課題を設定している。 ・自分の食生活を調理や食事と関連させて考え、工夫している。	・食事の役割について、問題解決に向けて自分の体験や一連の活動を振り返って改善しようとしている。

題材名		■学習課題○学習活動	時間数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 衣食住の生活（食生活）	2 食品と栄養素 (p.96~105)	■食品は食品群に分類されること、その食品群の五大栄養素との関係を理解する。 ■五大栄養素の体内ではたらきを理解する。 ○6つの基礎食品群について理解する。 ○食品群と五大栄養素の関係について理解し、食品成分表の見方を知る。 ○教科書で食べ物が体内でどのようなになるかを確認する。	3	・栄養素の種類と働きがわかり、食品の栄養的特質について理解している。		・栄養素の種類とはたらきについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
	3 中学生に必要な食事 (p.106~115)	■中学生に必要な栄養の特徴を理解する。 ■1回の食事を目で見ても栄養のバランスがとれているか判断できるようにする。 ○食事摂取基準から中学生に多く必要な栄養素を見つけ出し、その理由を考える。 ○1回の食事を目で見ても栄養のバランスがとれているか判断できるようにする。	2	・中学生の1日に必要な食品の種類と概量について理解している。	・中学生の1日分の献立について問題を見いだして課題を設定している。 ・中学生の1日分の献立について実践を評価したり、改善したりしている。	・中学生に必要な栄養素を満たす食事について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・中学生の1日分の献立について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
	4 日常食の調理と地域の食文化 (p.116~165)	■調理の意義やおいしさと調理の関係について理解する。 ○調理と「おいしさ」の関係について意見を出し合う。 ○5つの基本の味を理解し、うま味成分と相乗効果について理解する。	21	・おいしさと調理の関係について理解している。	・うま味について理解し、五感を使って自分の言葉で表現することについて考え、工夫している。	
		■衛生と安全・環境に配慮した調理実習の手順とポイントを理解し、調理操作を身につける。 ○衛生と安全、環境に配慮した調理の流れとポイントを確認し、調理用具の種類と使い方を知る。 ○きゅうりのいろいろな切り方について考え、調理の手順と流れ、注意点を確認し実習を行う。		・調理の手順と注意点がわかり、衛生と安全に配慮した調理について理解している。 ・野菜の切り方の名称について理解しているとともに、適切に切ることができる。		

題材名		■学習課題○学習活動	時間数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 衣食住の生活（食生活）		■生鮮食品の特徴を理解し、目的に応じた選択・保存ができる。 ○生鮮食品の特徴と目的に応じた選択・保存方法と食中毒の関係を理解する。		・生鮮食品の特徴とその表示の見方について理解している。	・生鮮食品の選択や保存について問題を見いだして、課題を設定している。	・生鮮食品の選択について、課題の解決に主体的に取り組んでいる。
		■肉の調理上の性質を理解して、肉の調理をする。 ■魚の調理上の性質を理解して、魚の調理をする。 ■野菜の調理上の性質を理解して、野菜の調理をする。 ○衛生的で安全な調理と見通しをもった調理実習を行うことを確認し、肉・魚・野菜の特性を理解し、それぞれにあった調理方法を考える。		・調理の目的や食材に合った取り扱いについて理解しているとともに、適切にできる。 ・肉・魚・野菜の調理上の性質を理解しているとともに、適切に調理できる。	・肉・魚・野菜の調理について問題を見いだして、課題を設定している。 ・肉・魚・野菜の調理計画を考え、工夫している。 ・肉・魚・野菜の調理について、実践を評価したり、改善したりしている。	・調理実習について工夫し創造し、実践しようとしている。
		■加工食品の特徴を理解し、目的に応じた選択ができる。 ○身近な加工食品をあげ、先に学習した生鮮食品の表示と比較しながら、加工食品の表示の見方を確認する。		・加工食品の特徴や目的に応じた選択方法を理解している。		・用途に応じた食品の選択・判断について、工夫し創造し、実践しようとしている。
		■地域で生産される食材の調理を通して、地域の食文化を理解する。 ○和食の特徴を理解し、地域の郷土料理を調べる。		・地域で生産される食材の調理を通して、地域の食文化を理解している。	・日常食の調理と地域の食文化について、課題解決に向けた一連の活動について考察したことを論理的に表現している。	・地域の食材を生かした調理の計画や実習に意欲的に取り組み、学んだ知識と技術の活用について工夫し創造し、実践しようとしている。
	5 献立づくり (p.166~171)	■1 日分の献立作成の方法を理解し、作成することができる。 ○各食品群の食品を組み合わせ、栄養バランスの取れた1日分の献立を考える。	3	・1 日分の献立を作成する方法について理解している。	・1 日分の献立を作成し、1 食分の調理の仕方や調理計画について問題を見いだして課題を設定している。	・1 日分の献立を作成し、課題の解決に主体的に取り組んだり、ふり返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	6 持続可能な食生活 (p.172~174)	■自分たちの食生活をSDG s の視点からふり返り、食生活のあり方について考える。 ○食品ロスや食料自給率の課題について理解し、自分たちができる工夫や社会の取り組みについて話し合い、発表する。	1		・社会や環境に配慮した食生活についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	・社会や環境に配慮した食生活を目指して、食事の役割や栄養、献立、調理などについて、工夫し創造し、実践しようとしている。

【2年】

題材名		■学習課題○学習活動	時間数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
▽家族・家庭生活	6 かかわり合う地域と家庭(p.76~81)	■家庭生活は地域とのかかわりで成り立っていることを理解する。 ○地域との相互の関わりで成り立っていることについて考える。	3	・地域の人との交流を深める、伝統や文化の継承、地域の安全を守るなど、家庭生活と地域とのかかわりについて理解している。 ・自分や家族もそれぞれの活動に関わることで地域を支えたり、支えられたりしていることを理解している。	・グループや学級全体で、多くの視点から考えを出し合い、自分にできるかかわりについて問題を見いだして課題を設定している。	・高齢者など地域の人々との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
		■地域に暮らすさまざまな高齢者について理解するとともに、かかわり方を考える。 ○地域で暮らす高齢者について考え、特徴を知り、介助体験を行う。		・元気に活動し、地域の仕事を支えている高齢者、手助けや見守りが必要な高齢者など地域にはさまざまな高齢者がいることを理解している。 ・高齢者の特徴について知るとともに、介助体験などを通して高齢者との関わり方について理解している。		
		■誰もが暮らしやすい地域のための工夫を理解する。 ○誰もが暮らしやすい地域にするために、災害を例に工夫を考える。				・多様な人々が暮らすことを考えながら、誰もが暮らしやすい地域にするために自分のできることについての課題解決に主体的に取り組んでいる。

題材名		■学習課題○学習活動	時間数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 衣食住の生活（衣生活）	1 衣服のはたらきと手入れ (p.184~199)	■衣服の社会生活上のはたらきがわかる。 ○小学校で学んだ衣服のはたらきをふり返り、いつも着ている衣服について考える。 ○T.P.O とは何か知り、自分らしく着こなす衣服を選択する。	6	・衣服の社会生活上のはたらきについて理解している。		・衣服の社会生活上のはたらきについて、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 ・衣服の社会生活上のはたらきについて工夫し創造し、実践しようとしている。
		■衣服に用いられている繊維の種類と特徴を理解する。 ○布やほぐした布を拡大鏡で観察する。 ○繊維の種類と特徴を理解する。		・布が糸で織られていることに気付くとともに、その織り方にはいろいろな種類と特徴があることを理解している。		
		■衣服についた汚れの種類がわかり、適切な手入れについて理解する。 ○衣服の着用で起きる変化や衣服の汚れの種類、程度を調べる。 ○汚れの性質や衣服の材質に合った方法で汚れを落とすことが大切であることを知る。		・衣服につく汚れやしみの種類と性質について理解しているとともに、衣服の材料や汚れ方に応じた方法で日常着の手入れが適切にできる。		
		■取扱い表示の意味を理解し、適切な手入れの方法がわかる。 ○実験を見て汚れを落とすために必要なことを知り、洗濯について知る。		・取扱い表示の意味を理解している。 ・適切な洗濯のしかたと洗剤の使用の方法について理解している。	・日常着の手入れや補修について、工夫し創造し、実践しようとしている。 ・補修実習について工夫し創造し、実践しようとしている。	
		■衣服の素材に合った洗剤とその適切な量について理解し、洗濯機による洗濯ができる。 ○手洗いと機械洗濯の違いについて話し合い、何をどの洗剤で洗ったらよいか考える。 ○汚れの程度や衣服に合わせた洗濯の方法を考え、洗濯を実施する。		・洗濯機の安全で適切な使い方について理解している。 ・洗濯の方法を理解しているとともに、適切にできる。		
		■衣服の状況に応じた手入れのしかたを理解し、適切に行うことができる。 ○衣服を観察し、手入れや、衣服の収納・保管、補修の必要性について考える。 ○補修の実習を行う。		・ほころび直し、まつり縫い、スナップ付けを理解しているとともに、適切に実践できる。 ・アイロンの使い方について理解しているとともに、適切に設定し、安全に使うことができる。		

題材名		■学習課題○学習活動	時間数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 衣食住の生活（衣生活）	2 衣服の選択と着方 (p.200~209)	■資源や環境に配慮した衣服の入手と処分について考え、衣服の計画的な活用について理解する。 ■既製服を選ぶポイントが分かる。 ○衣服の入手について考え、発表し合う。 ○環境に配慮した衣服の活用について学び、既製服のサイズや表示の意味について知る。 ■自分らしい着方を工夫することができる。 ○選択した衣服の理由を考え、カラーコーディネートについて知る。 ■和服の文化に関心をもち和服の着方を知る。 ○和服について知り、洋服と比較する。	3	・衣服の計画的な活用の重要性について、理解している。 ・既製服のサイズや表示の種類と意味について理解している。 ・和服の着方を理解している。	・T.P.O に応じた着用や個性を生かす着用について問題を見いだして課題を設定している。 ・衣服の着方や選択について実践を評価したり、改善したりしている。 ・衣服の着方や選択についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	・資源や環境に配慮し、持続可能な衣生活について工夫し創造し、実践しようとしている。 ・自分らしい色やデザインを選択しようとしたり、友達の意見を聞いたりして課題解決に主体的に取り組もうとしている。 ・和服の着装体験について工夫し創造し、実践しようとしている。
	3 布を用いた作品で生活を演出 (p.210~225)	■布を用いて生活を豊かにするものを考える。 ■製作の手順と要点を調べ、必要な用具と完成までの流れを理解できる。 ○小学校での製作を思い出し、「生活を豊かにする」ことについて話し合う。 ○製作の流れや用具を調べ、製作計画を立てる。 ○製作するものや手順について班や全体で発表し合う。 ■製作に必要な材料や縫い方、用具の安全な使い方理解を図り、その技能を身に付けるようにする。 ■製作の基礎・基本の習得に主体的に取り組み、よりよい製作を実践しようとする。 ○製作にあたって必要な知識・技能は何かについて話し合う。 ○ミシンの使い方を確認したり、ミシンと手縫いで縫ったものを比較したりして特徴を捉える。	6	・製作するものを決め、デザインを含めた製作計画を立てることについて理解しているとともに政策が適切にできる。 ・ミシンの使い方について理解しているとともに適切に扱うことができる。 ・ミシン縫いや手縫いの特徴を理解している。	・製作計画について問題を見いだして課題を設定している。 ・製作計画について考え、工夫している。 ・製作について実践を評価したり、改善したりしている。 ・製作についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	・製作に関心をもち、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ・製作について工夫し創造し、実践しようとしている。

題材名		■学習課題○学習活動	時間数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 衣食住の生活（衣生活）	4 持続可能な衣生活 (p.226~228)	■資源や環境に配慮した衣生活を送るために工夫できることを考える。 ○環境問題や課題解決の現状を把握し、自分の衣生活をふり返って課題を設定する。 ○課題の解決策を構想する。	1		・資源や環境に配慮する視点から問題を見いだして課題を設定し、解決策について考え、工夫している。	・課題の解決に主体的に取り組んだり、生活を工夫し創造し、実践しようとしたりしている。
	1 人間にとっての住まい (p.234~235)	■自分ごととして住まいをとらえ、住まいは生活を支えていることを理解する。 ○生活を支える場が住まいであることを知り、各家庭や地域により住まいで行われる活動の違いに気づく。 ○地域や国による住まいの違いを知り、住まいとはどのようなものか考える。	1	・住まいの基本的な役割には、機能的な面と精神的な面があることを理解している。 ・住まいは人々のさまざまな行動を支えていることを理解している。		・住まいを自分ごととしてとらえ、住まいに関しての課題解決に主体的に取り組もうとしている。
	2 生活に必要な住空間 (p.236~239)	■家族の住まい方や空間の使い方を理解する。 ■自身の住まい方の工夫を考える。 ○生活行為によって住まいが3つの空間に分けられることを知り、家族人数や生活行為に合わせた住まいの広さが必要であることを知る。 ○日本の住まいについて考え、住まいのはたらきと心地よさについて意見を交流する。	2	・家族の生活と住空間とのかわりについて理解している。	・住まいに必要な空間の使い方について問題を見いだして課題を設定している。 ・住まいに必要な空間の使い方について考え、工夫している。 ・住まいに必要な空間の使い方について実践を評価したり、改善したりしている。	
B 衣食住の生活（住生活）	3 自然とともにある住生活 (p.240~241)	■家族の住まいの希望を生かし、住空間の使い方を考えて工夫することができる。 ○住まいはともに住もう人たちが生活しやすいように工夫されていることを知り、課題に取り組む。	1	・家族がどのような生活を重視するのかによって、住空間の使い方が異なることを理解している。		・家族が心地よく住むための工夫について、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 ・家族が心地よく住むための工夫について工夫し創造し、実践しようとしている。

題材名		■学習課題○学習活動	時間数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		■住まいや住まい方は、気候風土や文化など地域の特性や生活を反映していることを理解する。 ○日本の気候風土に合わせた住まいの特徴や自然とともにある日本の住まいや住まい方を考え、現代の住居に継承していくよさについて考える。		・住まいや住まい方は、気候風土に合わせてたり、自然のよさを取り入れたりして工夫されていることを理解している。		
B 衣食住の生活（住生活）	4 安全で健康的な住生活 (p.242~255)	■家庭内事故の種類と、その原因を知り、幼児や高齢者にとっての安全な住まい方を考える。 ○家庭内事故について、事故の発生しやすい場所と安全対策について考える。	4	・家庭内の事故の種類やその要因と対策としての安全管理の方法について理解している。		
		■健康に住まうために、室内環境の調節方法を理解する。 ○家族が健康・安全に住まうための対策を考える。		・安全な室内環境の整え方について理解している。	・安全で健康な住生活について、問題を見いだして課題を設定している。 ・安全で健康な住生活について考え、工夫している。 ・安全で健康な住生活について、実践を評価したり、改善したりしている。 ・安全で健康な住生活についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	・安全で健康な住生活について主体的に取り組もうとしている。 ・安全で健康な住生活について課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
		■自然災害に備えて、住まいを安全に整備する必要とその方法について理解する。 ○自然災害への備えの工夫や被害を最小限に抑えるための住まいの備えについて考える。 ■地域のさまざまな災害に備えて、わたしたちの防災について考える。 ○災害に備えて、個人や家族、住民組織等の視点で防災について考え、まとめる。		・自然災害に備えて、住まいを安全に整備する必要とその方法について理解している。		
	5 持続可能な住生活 (p.256~258)	■持続可能な社会の実現に向けて、さまざまな住まいと住まい方の工夫があることを知る。 ○持続可能な住生活のために、課題を見つけ、改善方法を考える。	1		・社会や環境に配慮した住生活について問題を見いだして課題を設定している。 ・社会や環境に配慮した住生活について考え、工夫している。	・社会や環境に配慮した住生活について、課題の解決に主体的に取り組む、工夫し創造し、実践しようとしている。

題材名		■学習課題○学習活動	時間数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○消費生活・環境	1 家庭生活と消費 (p.264~265)	■金銭管理のしかた等自分の消費行動を振り返り、問題を見いだして、課題を設定することができる。 ○生産の流れや収入と支出、計画的な金銭の管理の必要性等を知り、自分の消費行動を振り返って問題を見いだし課題を設定する。	1	・消費生活のしくみを理解している。 ・収入と支出をはかり、金銭管理の大切さを理解している。	・金銭の管理のしかた等の自分の消費行動について問題を見いだして課題を設定している。	
	2 購入・支払いと生活情報 (p.266~273)	■商品を選択するポイントを理解し、比較検討しながら、目的に合った商品を選んで購入することができる。 ○商品を選択するときのポイントや、よりよい商品選択のための情報収集のしかたについて考え、自分の考えをまとめる。 ■購入方法や支払い方法の特徴や問題点や計画的な金銭管理の必要性について理解することができる。 ■金銭の管理と商品の購入について課題の解決に主体的に取り組もうとする。 ○さまざまな支払方法について知り、金銭管理について考える。	3	・物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理について理解しているとともに収集・整理が適切にできる。 ・購入方法や支払い方法の特徴や、計画的な金銭管理の必要性について理解している。	・自立した消費者として物資・サービスの選択・購入などの消費行動について考え、工夫している。	・金銭の管理と購入について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
○消費生活・環境	3 消費者被害と消費者の自立 (p.274~283)	■事例を通して、消費者の権利と責任について理解することができる。 ○消費者の権利と責任を果たす「自立した消費者」の在り方について事例を通して考える。	3	・消費者の8つの権利と5つの責任について理解している。	・消費者被害と消費者の自立について問題を見いだして課題を設定している。 ・消費者被害と消費者の自立について考え、工夫している。 ・消費者被害と消費者の自立について実践を評価したり、改善したりしている。	・消費者被害の事例について話し合い、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
		■消費者被害の現状や背景について理解する。 ○消費者被害の現状と背景、悪質商法の内容を知り、手口と予防方法をまとめる。		・消費者被害の現状と背景について理解している。 ・悪質商法の手口と予防法について理解している。	・消費者被害と消費者の自立についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	・悪質商法について課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・消費者被害について工夫し創造し、実践しようとしている。

教科書にそって、1時間ごとのまとまりを重視し、主体的な学習に取り組み、基礎・基本の定着をめざした指導計画案

題材名		■学習課題○学習活動	時間数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		■売買契約について問題発生の原因や対応方法を含め、理解する。 ○売買契約について知り、まとめる。 ■消費者を支える支援やしぐみについて理解し、環境や社会に配慮した消費行動について考える。 ○権利と責任を果たせる自立した消費者になるためにどのような支援や仕組みがあるとよいか発表する。 ○環境や社会に配慮した消費行動について考え、発表する。		・売買契約の成立と解約について理解している。 ・消費者を支える支援やしぐみについて理解している。		
生活の課題と実践	生活の課題と実践 【課題設定】 (p.292~303)	○今まで学習してきた「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」の中からほかの内容とも関連させて課題を設定して、課題解決に向けて計画を立てる。	1		・「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」などについて問題を見いだして課題を設定している。 ・設定した課題について解決策を考え、工夫している。	・設定した課題について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。

【3年】

題材名		■学習課題○学習活動	時間数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活の課題と実践	生活の課題と実践 【報告会・評価】 (p.292~303)	○生活の課題と実践の実践報告を行い、ふり返り評価する。	1		・設定した課題について評価したり、改善したりしている。 ・課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	・設定した課題について、課題の解決に主体的に取り組んだり、ふり返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	4 幼児の生活と家庭 (p.40~59)	■自分の成長をふり返り、幼児期への関心をもつ。 ○これまでの成長過程で幼児期を把握し、幼児期は心身共に大きな成長をする大事な時期であることを理解する。	8	・幼児期の成長や生活には、多くの人に支えられてきたことを理解している。	・幼児とのかかわり方について問題を見いだして課題を設定している。	・自分の成長をふり返り、幼児の学習について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
	A 家族・家庭生活	■幼児期の心身の発達の特徴や生活を理解する。 ○幼児と中学生の身体的な違いを知り、幼児期は心身ともに著しく発達する時期であることを理解する。 ○幼児の言葉、情緒、認知、社会性の発達について、具体的な行動の意見を出し合い、その意味と発達段階における成長や変化について考える。 ○幼児の基本的生活習慣や社会的な生活習慣を理解し、幼児の衣生活・食生活で工夫していることをグループで考える。		・幼児の身体と心の発達について理解している。 ・基本的な信頼関係や生活習慣の内容や生活習慣を身につける大切さを理解している。	・幼児の発達や生活は家族や周囲の人々に支えられていることを理解し、その重要性について考え、工夫している。	・幼児にとっての家族や周囲のおとなの役割について課題解決に向けた一連の活動をふり返って改善しようとしている。
		■幼児にとっての遊びの意義と子どもが育つ環境について考える。 ○幼児のころに遊んでいた遊びや読んでいた絵本をグループで出し合い、幼児が遊ぶ理由などを話し合う。 ○幼児にとってよい遊びができるようにするにはどうしたらよいか考える。 ○幼児にとって安心・安全な居場所とはどのような場所か、これまでの学習をふり返りながらグループで話し合いまとめる。		・幼児にとっての遊びの意義について理解している。 ・子どもが育つ環境としての、家族や周囲のおとなの役割について理解する。	・幼児にとっての遊びについて問題を見いだして課題を設定している。 ・幼児にとって安心・安全な居場所についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	・自分の経験から幼児期の遊びなどを思い出し、幼児にとっての遊びについて、工夫し創造し、実践しようとしている。

題材名		■学習課題○学習活動	時間数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
△家族・家庭生活	5 幼児が安心できるかかわり (p.60~71)	■幼児とのふれ合い体験について自分の課題をもち、これまで学んで身につけた基礎的・基本的な知識を活用して幼児とかかわる。 ○幼児について知りたいことや疑問に思うことなどの自分の課題を見つける。 ○ふれ合う幼児の年齢や発達の特徴などから、接し方や話し方、遊び方を工夫し、安全に配慮しながら幼児とのふれ合い体験を行う。 ○幼児と交流して感じたことや考えたことをグループで報告し、まとめる。	4	・幼児に応じたかかわり方について理解しているとともに、適切にできる。 ・幼児とのかかわりについて理解しているとともに、観察したことを整理し、適切にまとめることができる。	・幼児とのよりよいかかわり方について問題を見いだして、課題を設定している。 ・幼児とのよりよいかかわり方について、実践を評価したり、改善したりしている。	・幼児とのよりよいかかわり方を考え、課題の解決に主体的に取り組んでいる。
		■子どもの成長と地域のつながりについて知り、地域の中で中学生ができることを考える。 ○地域で子どもを支えている施設の役割などを理解し、中学生ができるかかわりについて考える。			・地域での幼児とのかかわり方について考え、工夫している。	
	7 持続可能な家庭生活 (p.82~84)	■誰もが尊重される家庭・地域の生活について課題を見つけ解決策を考える。 ○家庭生活の学習をふり返し、SDG s と家庭生活のかかわりについて考える。 ○誰もが尊重される社会はどうすれば実現するかについて考え、話し合い、発表する。	1		・家族・家庭・地域についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	・これからのよりよい社会のために、何ができるのかについて工夫し創造し、実践しようとしている。
○消費生活・環境	4 持続可能な社会に向けて (p.284~288)	■持続可能な社会に向けて、自分たちができることを考える。 ○自分の消費生活が環境に与えている影響について話し合い、自分なりの解決方法を考える。	3	・自分や家族の消費生活が環境に及ぼす影響について理解している。	・今までの学習をふり返し、持続可能な社会に向けての取り組みについて考え、工夫している。	・持続可能な社会を目指して、自分たちができることを工夫し、実践しようとしている。